

## 第9回全国スポーツクラブ会議 in 出雲 報告書

期日:平成27年5月16日(土)~17日(日)

会場:大社文化プレイスうらら館

16日(土)

### 1. 挨拶

○白枝淳一(第9回全国スポーツクラブ会議 in 南相馬実行委員長)

○野口武人(出雲市副市長)

○森岡裕策(文部科学省スポーツ振興課長)

### 2. 徹底討論「スポーツは自立できるのか」

○コーディネーター:山中裕文(クラブリンク JAPAN 理事長)

○パネリスト:森川貞夫(日本体育大学名誉教授)

黒須須充(認定 NPO 法人クラブネッツ理事長)

田中宏暁(福岡大学スポーツ科学部教授)

木田悟(一般財団法人日本スポーツコミッション代表理事)

#### 【森川氏】

国の地域スポーツ施策は、基本 5 年サイクルで変わる。その中で、総合型クラブ関連施策は20年続いており、異例である。その一方で、日本全体のスポーツ団体加入率は平成25年度時点で16.2%であり、総合型クラブがスポーツ実施率に大きく貢献しているとは言い切れない。反面、種目指導者ではなく地域スポーツをマネジメントする「クラブマネジャー」という存在が生まれたことは総合型クラブ施策の副産物であると思う。

クラブができ、どのような成果が出たのかをもっと調査し、公開すべき。しかるべき機関がクラブに関わり、クラブが貢献した医療費削減分を補助金として還元するなどの仕組みが生まれれば面白い。

#### 【黒須氏】

自身は、国会でサッカーくじを承認する際の参考人として関わったのが最初だったように思う。そもそも総合型クラブが目指したのは会員だけが楽しむクラブではなかったはず。自分たちの住んでいる地域住民全員に対して何ができるのか。クラブは、様々な地域政策と柔軟にフィットすることが重要。ニッチな分野にアメーバのように入り込むといい。

#### 【田中氏】

初めて総合型クラブの話聞いたとき、学校ではなく地域で、様々な世代と一緒にスポーツを楽しめるということに希望を覚えた。昭和61年、厚労省が“運動所要量”という概念を打ち出した。さらに数年後、OECD が「世界中でメタボが増え続けており、経済にも影響がある」と発表したことを受け、当時小泉政権が厚労省に「特定健診・特定保健指導」の制度をつくらせた。しかし、診断ができて運動指導ができる人材がおらず、本来のメタボ“解消”には役立っていなかった。健康のためには、運動・スポーツしかないことは明らかである。

福岡大学では、アビスパ福岡と連携して、介護予防事業を行っている。スロージョギングでウォームアップした後サッカーを体験し、アビスパ福岡の試合観戦を行うプログラムだが、大好評をいただいている。

【木田氏】

「スポーツコミッション」という単語は、当団体が商標登録済である。スポーツ・運動をつうじて地域づくりをするという団体は利用可としているが金儲けのために使うことは控えていただきたい。

スポーツの社会的効果をいかに発揮させていくか。アメリカでは「コーポレートヘルス」の考え方が根付いており、企業が医療費削減に貢献した場合、その削減額分の補助金が出る制度もある。スポーツの効果を多様に使い、安全で幸せで健康な社会をつくるため、全国のクラブに尽力いただきたい。

### 3. 実践報告&全体討議

#### ①組織のイノベーション～人のマネジメント～

司会進行:山中裕文

発表者:大野都弥子(広島:筆の里スポーツクラブクラブマネジャー)

石川和子(香川:一ノ谷スポーツクラブ事務局)

【大野氏】

筆の里スポーツクラブでは、組織を4回作り直した。H7～H8年に文科省育成モデル事業第1期生として補助金を受けていたが、事業が終わるH9年に組織のトップを解任し、参加者主体の組織に作り替えたのが第1歩である。常にアンケートを取り続けており、それに沿って組織を変え、教室に定員を設ける等改革を行ってきた。NPO化の際には、NPO法人出雲スポーツ振興21にバスを貸し切って出向き、一から勉強させてもらった。

【石川氏】

設立当初から活動が続いているグラウンドゴルフが、今クラブを引っ張っていく原動力になっている。誰に命令されるのでもなく、内なる力に従ってやってきた。若い父親と子どもを対象に朝食パン作り教室などを開催。その父親が防災キャンプ実施の際、要となるなど、好循環が生まれている。自身は、最近スロージョギングに積極的に取り組んでおり、現在約12キロの減量に成功している。

#### ■質疑応答■

・法人化に当たり、知恵を出す人がいたのか？

→【大野】当時の町生涯学習課課長が「1年でNPO化しよう」と先陣を切ってくれた。

・事務局への補助はあるのか？

→【大野】町のスポーツをとりまとめる「NPO法人熊野健康スポーツ振興会」に町の補助が出ており、クラブは上記振興会の一員であるため、クラブに直接補助が出ているわけではない。

・防災キャンプは、参加者募集をしなくてもあつまるのか？

→【石川】最初の年は、小学5年生の宿泊学習に合わせて開催した。その後、要望があって全学年を対象にすることになり、子ども会を通じて案内を出した

・以前、一ノ谷スポーツクラブの防災キャンプを視察したが、地域の人がどんどん現れて驚いた。地域に愛されているクラブだと感じるが、今後どんなふうになりたいか？

→【石川】自分の勤務している公民館は、敷居が低く誰でも来れる場所でないといけない。この地域に住んでよかったと思う人を増やすことが自分の仕事である

・強い思いを持ってつくられた組織は変えにくいと思う。4回の組織編制は凄いなと思うが、どのように変えて行ったのか？トップをどう説得したのか？

→【大野】主に、アンケートを活用して説得した。「1人1人の会員をきちんと考えている」と会員に思われるクラブでありたい。会員のためにいいことをしていれば、必ず会員が支えてくれる。

## ②プログラムのイノベーション～顧客満足度を高める～

司会進行: 関口昌和

発表者: 渡辺優子(新潟:NPO 法人希楽々ゼネラルマネジャー)

小池正浩(静岡:掛川総合スポーツクラブクラブマネジャー)

### 【渡辺氏】

設立当初は、年間 100 万円規模 & 全てボランティアではじまった。小規模であり期待もされていなかった分、外部圧力がなかったのとことん楽しむことができた。クラブは、Warmheart & Coolhead の精神。スポーツ+a ではなく、a の中にスポーツ要素を入れ込む考えで活動すればいくらでも視野は広がる。「あなたのチカラが必要です」と地域に呼びかける。

新潟県村上市では、総合型クラブに市内全体育施設を“特命”で指定管理している。クラブに任せると、新規事業が次々生まれるという行政からの信頼も得られている。文科省「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」の期限が切れるに当たり、市にプレゼンし、600 万円の予算化に成功した。総合型クラブとしての希楽々、NPO としての希楽々を使い分ける

## ③財源確保のイノベーション～依存から自立へ～

司会進行: 白枝淳一

発表者: 鳥本靖之(愛知:NPO 法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ事務局長)

伊賀上哲旭(愛媛:NPO 法人今治しまなみスポーツクラブクラブマネジャー)

## 4. 本音トーク「クラブ運営 奮闘の舞台裏～これだけは言わせて！～」

○コーディネーター: 矢田栄子(島根:NPO 法人出雲スポーツ振興 21 事務局長)

○発言者: 熊耳雅美(北海道:NPO 法人羅臼スポーツクラブらいずクラブマネジャー)

相澤和江(埼玉:NPO 法人スポーツ・サンクチュアリ・川口クラブマネジャー)

金山恵美子(島根:NPO 法人 SPORTIVO ひがしいずもクラブマネジャー)

梶尾洋子(岡山:NPO 法人美咲町柵原星の里スポレク倶楽部副理事長)

西田由実(熊本:NPO 法人 A-life なんかん事務局長)

### <1日目写真>



17日(日)

## 1. クラブカウンセリング

※1 日目終了後、各クラブが記入したシートに基づいて3名のカウンセラーが回答。

○カウンセラー: 板垣昌行(クラブリンク JAPAN 常任理事)

大西真知子(徳島: いけだスポーツクラブクラブマネジャー)

渡辺優子(新潟: NPO 法人希楽々ゼネラルマネジャー)

### 1) クラブ間連携について

○クラブのある地域は、主産業が農業であるため「外で体を動かしている」という自覚が強く、金を出してスポーツをするという意識が低い。また、高品質の農産物がたくさんあるにも関わらず、売り方を知らない高齢者が多い。全国に3,500とある総合型クラブの繋がりを活用して、地場産品でも交流ができないか?

→NPO 法人羅臼スポーツクラブ(北海道)でも同様のことを検討しており、春～秋まで旬の地場産品をパッケージ化して、限定数で売り出すなど出来れば面白いと考えている。

→NPO 法人希楽々では、人口 60,000 人の市に対し 5 つのクラブがある。現在、市連絡協議会を立ち上げ、第 7 回全国スポーツクラブ会議の周知・開催や、文科省「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」の活用、5 クラブ合同の会報誌を作成するなど、連携を図っている。

→NPO 法人団体の場合、本来事業と収益事業の 2 つを設けることができるので、収益事業として地場産品を活用するのはいいかもしれない(ただし、事業会計はわけること)。大会の景品に地場産品を活用しているクラブもある。

○全国の総合型クラブがどこで何をしているのか、一目でわかるようなアンテナサイトがあるかと思う。

→以前実現しようとしたが、情報の更新をこまめにすることや写真掲載に当たり個人情報の問題などがあってできなかった。確かに、クラブに関心のある人なら自由に行き来できる駅のプラットフォームのような存在があるかと思う。

### 2) 「人」に関する悩みについて

○クラブマネジャーの賃金や講師謝金の確保に悩んでいる。

→NPO 法人希楽々では、指定管理業務・福祉関連委託事業・クラブ自主財源などを駆使して人を雇用している。近年、3人の職員を新規雇用したが、忙しくなった。これまで地域住民に任せていた仕事をクラブがやってしまうようになったからである。これは新たな課題だと思っている。

→いけだスポーツクラブでは、合併前から体育施設 & 事業委託をクラブが受けており、職員4名分(社会保障有)の人件費を町が予算計上してくれている。

→受託事業で儲けることはできない。自主事業だから儲けることができる。

○施設の指定管理を、地区体協に取られてしまう。

→スポーツできる場所は体育館だけではない。使える場所は全部使って、どんどんクラブの存在を PR していくべき。地区体協も、事務処理をクラブが行う・一緒に地域交流イベントを実施するなど、敵視するのではなく手を取り合えば、活動の幅が広がる。

○クラブ会員が増えない。

→会員になってもらう、というよりまずはクラブ自身に関心を持ってもらうこと。どんな家かもわからないのに、そこに住もうと思う人はいない。

→会員を無理に増やす必要はないと思い始めている。クラブは会員だけのものではなく、地域のためのものである。

### 3)スポーツ庁について

○本年10月に設置されるとのことだが、時期尚早ではないかと感じている。学校体育・部活をどうするのか、地域スポーツをどうするのか国が責任を持ってきちんと方針づけるべき。

→日体協下部組織の SC 全国ネットワークでも、各都道府県クラブ連絡協議会の声を拾い、文科省に提言を続けている。具体的な成果は出ていないが、言い続けていくことが重要だと思う。

## 2. 総括シンポジウム

○司会進行:山中裕文

○提言者:小田新紀(北海道:NPO 法人幕別札内スポーツクラブクラブマネジャー)

白枝淳一(島根:NPO 法人出雲スポーツ振興 21 専務理事)

藤川佳久(山口:SA スポーツクラブ理事長)

桑田健秀(東京:NPO 法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット理事長)

※公共交通機関の時間上、参加していない。

## 3. 閉会式

「第10回全国スポーツクラブ会議」の開催予定は以下の通り。

開催日:平成28年5月21日(土)~22日(日)

会場:いしかわ総合スポーツセンター(石川県金沢市)

主管:いしかわクラブゾーン(石川県クラブ連絡協議会)

### <2日目写真>

